

CONTENTS

尾道の祭り風土記 ～まちなみ編～ …… 1 - 4 頁  
描かれたありし日の尾道町歳時記 …… 5 頁  
堀田翠峰が記録した尾道の年中行事 …… 6 頁



栗原地区鉦太鼓奉納の一团、戦前の記録写真より。撮影地点は栗原町の大池交差点付近。栗原歴史教室(栗原公民館内)提供。

前号(第9号)の「やまなみ編」に続いて、今号では「まちなみ編」として、旧尾道市域・本土側南部を範囲に、多様な祭礼文化をご紹介します。

やまなみ・まちなみ・しまなみと、山間部から都市部、島嶼部とにまたがる尾道市域の内には、それぞれで地域性に富んだ多様な多彩な祭礼文化を目にする事ができます。

里山では祭礼に彩を添えるものとして芸能性の高い「鉦太鼓踊り」や「獅子舞」の分布が色濃く、尾道旧市街地の都市部にあつては何と言つても「神輿」がその花形にあり、猫の額のような狭小な同地域内に、実に8基もの大人神輿が見られるのは、祭りの多さと如実に比例しています。豪勢なる住吉花火の賑わいと共に、商都ならではの経済力の程もそこに窺い知れます。

島嶼部・しまなみ地域を見渡せば、宮島厳島神社の管絃祭に倣つての船祭り(海上渡御)、陸の上で船を担ぐ・曳くという形態の祭礼が特色として拾い出せます。また、因島地域では伊予地方とも通じるような「ふとんだんじり」が各地区に分布し、祭礼に欠かせない存在感を放つなど、ここでも地域的特色が見てとれます。

まちなみ編では、お祭りが過密する尾道旧市街地を中心に主だったものをピックアップしますが、ここに挙げる以外にも、祭礼は各地域でまだまだ豊富に点在しています。

現在は引き続きコロナ禍でお祭りもままならない中ですが、この機会に尾道の祭礼文化を再認識して頂ければ幸いです。

尚、島嶼部のしまなみ編は続く11号にて特集します。

### 【栗原】鉦太鼓奉納

前号・やまなみ編で見た通り、御調及び旧尾道北部は鉦太鼓の芸能が広く分布し、地域的特色として一つの文化圏を成す。その南限にあるのが栗原の鉦太鼓で、町内の各地区に鉦太鼓の所有及び伝承が今も見られる。栗原の鉦太鼓はお盆の8月15日、則末、向ヶ崎、川上、向山、松岡、竹屋、門田の7地区から氏神である烏須井八幡神社へ奉納され、その後は各地区へ戻り、荒神社や新盆を迎えた地区住民宅で踊られる。



烏須井八幡神社境内で奉納される鉦太鼓（昭和末）

### 【吉和】吉和太鼓おどり

県の無形民俗文化財に指定されている吉和太鼓おどりは、隔年の8月18日、東久保町・浄土寺に奉納される民俗芸能になる。その由来には二説があり、浄土寺参詣で知られる足利尊氏の戦勝祝いに、尊氏の要請（水軍の船手）に従った吉和浦の漁師達が踊ったとするものと、同じく中世の時期に、吉和浦に疫病が流行し、その平癒を浄土寺本尊の十一面観音に祈願して効験があった事に対する感謝の奉納とする説が伝わる。



吉和太鼓踊り（1974年・土本寿美氏撮影）

### 【吉和】吉和八幡神社大祭に見る先祓いの鬼

旧吉和村の氏神社である吉和八幡神社の例大祭（秋祭り）には、大人神輿と子ども神輿が宮下の射場に組まれた御旅所へ渡御し、その翌日町内を巡幸する。巡幸する大小それぞれの神輿の先祓役には、猿田彦面とお多福面、獅子頭が繰り出し、猿田彦とお多福が手にする竹ササラで主に子ども達を叩いて回り、獅子も子ども達に噛みつくなど、その光景は尾道町内に見るベッチャーそのもの。



猿田彦と獅子の襲来に絶叫する子ども（2019年）

### 【尾道市街】尾道ベッチャー祭り

江戸時代、尾道町に疫病が流行した際、その鎮静を祈って始まった奇祭として名高い。ベッチャーの語源は、神輿の先祓役として登場する三鬼神の内のベタが転じたものという。面としては能狂言に見る武悪の面になり、ソバの面は大蛇（鬼女）面、ショーキーの面は先導神・猿田彦の面で、これに獅子頭が加わり、急調子のお囃子にのって街を練り、手にする祝棒で突かれ、竹ササラで叩かれる事で無病息災が祈念される。



三鬼神の内のショーキー（戦後・尾道市蔵）

### 【尾道旧市街】住吉祭

夏の尾道水道に打ち上げられる花火は、海上安全と尾道港繁栄を見守る住吉神社の大祭に添えられる大輪の花。住吉神社は元々は浄土寺境内に鎮座していたが、住吉浜築調整備を指揮した尾道町奉行・平山角左衛門（名譽市民第一号）の手によって現在地へ遷された。花火については、幕末の頃、江戸の両国花火に刺激を受けた浜問屋衆が始めたと伝えられ、今にその心意気が引き継がれる。



昭和40年代の住吉花火（旧尾道市史編さん室撮影）

### 【尾道旧市街】尾道みなと祭

尾道における港湾整備の先駆者となった尾道町奉行・平山角左衛門の功績を末永く讃えようと、昭和10年（1935）より始まり今に続く挙市的な祝祭。本通り商店街及び海岸を中心に種々の催しが繰り広げられ、住吉花火やベッチャーと並び多くの人が出で賑わう。観光イベントではなく本来的には祭礼であり、平山霊神社（住吉神社内）の神事と浄土寺境内にある墓参法要から幕開けする。



本通り商店街でのパレード（昭和30年代・土本寿美氏撮影）

### 【尾道旧市街】尾道天神祭

長江の御袖天満宮の夏季大祭は、旧暦では6月23日〜25日にかけて行われ、現在は7月の海の日に近い3日間と天神様の縁日である25日に行われる。大林映画「転校生」で印象的なシーンとして刻まれる55段の参道石段を、大神輿が勇美に昇降する様は圧巻で、祭礼のクライマックスを飾るこちらも印象的なワンシーンを刻む。御袖天満宮は祭神・菅原道真公の尾道来所を縁起とし、菅公が残した片袖を御神体とする。



大神輿の出発風景（1958年・土本寿美氏撮影）

### 【尾道旧市街】水祭り

カクホシこと尾道造酢横から市役所へ通じる道を水尾小路といい、その界限は水尾町と呼ばれる。季節感を最も感じさせる水祭りは、水尾町内に鎮座する熊野神社（通称・熊野権現）の祭礼として親しまれる。その祭礼に花を添えるのが水細工の舞台で、その時の流行りや時事ネタ、地元尾道にまつわるものといった種々の題材で作られた人形舞台から勢いよく水がほとばしる。縁目的なほのぼの感が何とも心地よい。



平成元年（1989）復活時の舞台より（今川吉弘氏提供）

【尾道旧市街】尾道祇園祭

古くは時宗常称寺（西久保町）境内に祀られ、明治初年の神仏分離以降は久保新開の厳島神社に合祀される八坂神社の大祭・祇園祭には、一つ巴・二つ巴・三つ巴と称される三体の神輿が繰り出す。三体神輿は尾道町を構成する久保・長江・土室に対応しており、それぞれの町を担う神輿という一面も持つ。



薬師堂浜での三体廻し（戦前・尾道市蔵）

【尾道旧市街】山王祭

東久保町、浄土寺山（瑠璃山）西側中腹に鎮座する山脇神社の例大祭で、山王信仰は滋賀県大津市の日吉大社を総本宮とする。勇徳祭（久保3丁目・勇徳稲荷神社例祭）と並び夏祭りの先駆け（5月中旬）。尾道ではこの日から浴衣を着始める事から俗に「ゆかた祭り」とも称された。その昔は人形飾りの出し物が沿道に並び、防地通りでは夜店や植木市も開かれ賑わった。山王さんの神使は猿で、狛犬ならぬ狛猿が愛嬌を誘う。



防地通りに並ぶ夜店は今は見る事ができない（平成初期）

【山波】神明祭・とんど

小正月の行事としての「とんど」は市内でも各地に見られるが、山波地区はとりわけ盛大に行われ、市の無形民俗文化財に指定される。高さ13mほど・総重量200kg近くに及ぶ大とんどは、格子状に組まれた4本の丸太で神輿の如く担がれ、囃し唄と太鼓の音ののって威勢よく練り、激しく上下に揺さぶつたり、互いにつけ合うなどして勇壮な様を見せる。



山波小グラウンドを練る三基のとんど（平成期）

【山波】餅つき神事

旧山波村の氏神である良神社の例大祭（秋祭り）では、餅をつきあげて神に献じる古式ゆかしい神事が繰り広げられる。その由来として、祭神である吉備津彦命が山波の地に上陸し休息された際、里人が餅をついて捧げたとの伝説を秘め、吉備津彦の神跡を伝えるものとして、吉備津彦所持の杖が芽吹き育つたと伝えるウバメガシの御神木（県の天然記念物）も見られる。



※ 前9号で紹介した「相原八幡宮」の「相原」は、正しくは「榎原」の表記で訂正致します。

描かれたありし日の尾道町歳時記

正念寺所蔵の堀田翠峰作品より

幕末から明治の頃に見られた尾道町内の歳時記を、カラフルなビジュアルで描いたこちらの絵は、地元教育者で文人画家でもあった堀田翠峰（1849〜1942）が描いたものです。

描かれた歳時記は、子どもの頃の記憶にある風景を最晩年の時（亡くなる前年92歳の作品）に描いたもので、尾道町内の年中行事が細部に亘って正確に描き出されているのに驚かされます。この内には今日では既に見られない祭礼風景も多々ある他、奇祭ベッチャーも見えるなど、貴重な民俗資料として取り扱われます。



堀田家から檀那寺である正念寺（西久保町）へ納められている



秋の頃～久保亀山八幡祭の神輿とてんびん



夏の頃～天神祭五十五段の神輿昇降



年始～とんど、年賀の挨拶、七草等



秋の頃～えびす講（廿日えびす）等



夏から秋の頃～吉和太鼓踊り、月見団子



春の頃～雛節句、千光寺山花見等



晩秋の頃～一宮さんのベッチャー



秋の頃～長江良祭の八角神輿と芝居屋台



夏の頃～祇園祭三体神輿と山車

# 堀田翠峰が記録した尾道の年中行事

『堀田翠峰著「一生中之歴史」より』

- ◆正月八日、峯ノ薬師◆正月十四日ノ神明(俗ニトンド)薬師堂、荒神堂、渡場、今町築嶋、漁町、丹花、長江、新町、鍛冶屋町等ヨリ出ス◆正月十七日、浄土寺初観音富籤アリ◆二月初午、処々稲荷祭◆三月廿日西国寺大師会日(花供養ト云フ)、諸方ヨリ見世物、覗キ、芝居等ノ興行寄集り、近在近嶋ヨリ参詣、市中雑踏ヲ極ム◆三月廿七日、丹花荒神祭り◆四月初申、宮崎町山王祭り(山手火アリ)◆四月初卯、後地勇徳稲荷祭り、薬師堂稲荷祭◆四月十四日、今蔵通大黒祭り◆四月廿三日、叶町八軒町白髭祭り◆五月十二日、幸之前町塞ノ神祭り◆五月十五日、新開石八幡祭り、天寧寺秋葉祭り◆六月七日、十四日ノ祇園祭、是当町一年中名代ノ大祭ニテ遠近ヨリ人集ル。祇園市ト云フ ※下段へ続
- ◆六月十七日、築嶋巖島明神祭◆六月二十四日、鎮神小路熊野祭り(水細工アリ)◆六月廿四日、廿五日、天神祭◆六月二十八日、浜住吉祭(煙火アリ)◆七月十五日、十六日、十七日、盆踊り◆八月十五日、八幡祭御輿ノ巡幸、市中賑ヒ天秤等、天神祭ニ同ジ◆九月廿九日良祭、御輿ノ巡幸、市中ノ賑ヒ天秤等、八幡祭ニ同ジ。然シ、宵宮ヨリ祭日ニ、鍛冶屋町ヨリ野台芝居ヲ出ス。舞台、楽屋ノ二車台ヲ市中ニ曳キ、大家ノ門先ニテ興行ス◆十月十七日、御所一宮祭り(獅子、天狗、鬼面夜叉等ノ厄払出テ、賑ヘリ)◆十月二十日胡祭。町中ニ小社七ヶ所アリ◆十一月十五日尾崎町丹生祭(浄土寺境内アリ)尾崎漁師町ノ大祭四五日業ヲ休ム。連夜神楽アリ。

※主なものを抜粋し列記。

## 『新尾道市史』刊行計画

市制施行一二〇周年にあたる平成三十年度(二〇一八)を振り出しに、令和十年度(二〇二八)までの十一年計画で、新市域を網羅しての『新尾道市史』を編さんします。今後の刊行スケジュールは次の通りです。

令和三年度(二〇二二)予定	文化財編	下巻
	資料編	近世
令和四年度(二〇二三)	資料編	古代・中世
	資料編	近代・現代
令和五年度(二〇二四)	民俗編	民俗編
令和六年度(二〇二五)	地理編	地理編
令和七年度(二〇二六)	通史編	原始・古代・中世
	通史編	近世
令和八年度(二〇二七)	通史編	近代
令和九年度(二〇二八)	通史編	現代

## 編集後記 \* 2022.3

寒さもやわらぎ過ぎやすい季節になってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

『新尾道市史』の刊行も例に漏れず新型コロナウイルスの影響を受けておりますが、計画を見直しながら、皆様のお手元に市史をお届けできるように励んでいるところです！

さて、この度は尾道の祭り風土記第2弾として「まちなみ編」をお送りします。古写真や絵で当時のお祭りの様子を覗いてみましょう！

まだまだ縮小傾向にあるお祭りですが、この機会に皆様と尾道の祭礼行事を再確認していきたいと思っております。次回は「しまなみ編」です。どうぞお楽しみに！(I.M.)

※『市史広報』は年に2回程度の発行を予定しております。みなさんの様々なお声や情報をお待ちしております。

## 史資料や情報をお寄せください

古文書や古写真(写真絵葉書を含む)、古地図、尾道の話題を報じる古新聞など、市史編さん委員会事務局では、幅広い分野において尾道に関わる史資料を収集しています。また、無形の伝承(地域に伝わる言い伝えや独特な慣習、祭礼芸能等)についても収集対象となります。もしみなさんのお宅や周辺で、あるいは地域で、そうしたものが発見された場合は、事務局へご一報ください。史資料については複製(写真撮影・コピー)を取らせていただくのみで、現物については速やかにお返しさせていただきます。情報提供は下記の事務局連絡先までお願いします。お電話での受付時間は平日8:30~17:00です。(文化財係:0848-20-7425)